

造影剤製品ヨード量の違いと造影カテーテル細径化による造影効果の違い

¹医療法人 財団 康生会 武田病院、²医療法人 財団 康生会 武田病院

野崎 暢仁¹、福田 友規¹、小網 亮¹、木下 法之²

【目的】近年、心臓カテーテル検査（以下心カテ）は患者に対して低侵襲化が求められている。患者侵襲に関する現在の問題点として様々なものがあるが、今回は造影剤使用による造影剤腎症、術後出血等の穿刺部合併症について考えた。我々は、それらの問題を低減する目的として、造影剤使用量の低減・穿刺デバイスの小サイズ化を試みた。造影剤製品には造影剤含有ヨード量 350mg/ml と 300mg/ml の製品がある。前者よりも後者はヨード量が少なく造影剤粘性が低い。また浸透圧が低いことから造影剤腎症に対する侵襲が低いのではないかと考えた。また造影カテーテルを細径化する事により術後合併症を低減する可能性があることを考え 4Fr から 3Fr に変更した。しかし、これらのことから造影効果に差が出ることも考えられるため、その造影効果の比較を行った。【方法】使用造影剤としてイオメロン 350 と 300（エーザイ）を使用した。造影カテはグットテックカテーテル 4Fr およびフクダトレール II 造影カテーテル 3Fr を用いて造影検査を行った。対象は、当院で造影検査を行った 10 症例とした。造影後、撮影画像を当院心カテスタッフ複数名に造影効果について評価可能又は不能を判定してもらった。尚、造影剤注入速度は一定にした。【結果】造影剤の違いによる造影効果の差は若干あるものの、評価するには問題がなかった。また、造影カテーテルの 4Fr 又は 3Fr の違いでの造影効果について差はあったものの、冠動脈評価をするには症例を選択すれば十分ではないかと考えられる。結果詳細については発表時に報告する。